

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 福岡市立元岡中学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☒ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒819-0383  
福岡県福岡市西区大字田尻108番地  
E-mail \_\_\_\_\_  
Website \_\_\_\_\_  
幼児児童生徒数 男子 418名 女子 421名 合計 839名  
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「つながり」を活動テーマとして、ESDを総合的な学習の時間の活動や各教科のつながりを意識させる柱と捉え、ESDの実践を通してたくましく生きる力を育むことを基調とし【自律】した行動がとれること、及び自分を大切にする、共に他の人を思いやる【共生】の精神を備えた生徒を育成することを目指した。

具体的には、環境教育、伝統文化に関する教育、国際理解教育を柱に、①フィールドワークを軸とした地域の伝統文化理解、②総合的な学習の時間を活用した環境教育、③留学生との交流活動を含む国際理解教育を行った。

### ① フィールドワークを軸とした地域の伝統文化理解

1年次に、ESDのオリエンテーションを行った上で、地域の歴史的な遺産を巡るフィールドワーク及び調べ学習を実施した。地域には大塚古墳や宮崎安貞邸跡、瓜生貝塚があり、それらについて実際に足を運んで見学し、地域

の「よかところ案内人」の方々の説明を聞き、理解を深めた。フィールドワークを終えたあとには、自分たちで地域の歴史的な遺産について学びを深め、ポスター発表を行った。

## ②総合的な学習の時間を活用した環境教育

1年次に行われる自然教室の中で、環境について広く学習を行った。自然教室から戻って来た後に、現在地球が抱える環境問題について調べ学習を行い、レポートを作成した。レポートをもとにして、クラスの代表者を決め、体育館で代表生徒による発表会を実施した。

## ③ 留学生との交流活動を含む国際理解教育

2年次の京都への修学旅行の際に日本の伝統文化について調べ学習及び、実際に京都の班別自主研修で理解を深めた。3年次には、班ごとに日本の文化について調べ学習を行い、それぞれの班で考えた形式でプレゼンテーションを行う準備を進めた（例：着物を実際に着付けする、紙芝居を作成する、琴を実際に演奏する、漫才を実際に行うなど）。その後、福岡第一高校の留学生を学校に招き、それぞれの班のプレゼンテーションを披露した。また、留学生のほうから自国の文化を紹介してもらい、質疑応答を相互に行うことで交流を図った。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

1 年次…ESD クエスト  
2 年次…オリジナル教材  
3 年次…オリジナル教材

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年にける総合的な学習を貫く柱としてESDを位置づけている。そのため、1年次にユネスコスクールやESDについての学習を行い、3年間の総合的な学習の取り組みに「つながり」があることを生徒に理解させた上で、各学年の取り組みを行っている。1年次には地域について、2年次には日本の伝統について、3年次には国際的な内容を取り扱うことで、生徒の視野が広がっていくように教育計画を策定している。一昨年度までは各学年の取り組みが分断されたような状態であったが、1年次にオリエンテーションを行うことで、改善されてきている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初の職員研修会の中で、本校がユネスコスクールであることやESDについての研修を毎年行っている。今年度は、実際に生徒が活動によって作りあげた学習プリントやポスターを持ち込み、初めて本校に来られた先生にも取り組みを理解して頂けるようにした。また、ESDに関する研修に担当職員が年に2度程度参加し、その内容を職員間で共有するようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての学校活動の評価については、実施できていないため、今後その方策を考えていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD4 の推進拠点としての活動としては、中学校ブロック研修会の中で、小学校に対して本校がユネスコスクールであることや、ESD について紹介することができた。今後は9年間というスパンで、各活動のつながりを児童生徒に伝えていけるよう、小学校との連携を深めていく必要がある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

3 年次に、国際理解教育のため、福岡第一高等学校の留学生を学校に招き、本校生徒による日本文化の紹介及び留学生からの自国文化の紹介をしてもらうようにしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールとの協力は実施できていないため、今後検討していく必要がある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

3年前までは本校がユネスコスクールであるという認識が生徒・教員ともにかなり少ない状況があった。職員研修とESDに関するオリエンテーションを生徒に継続的に行うことで認知が進んできたように思われる。しかしながら、活動内容の深化についてはまだ至っていない。各学年における取り組みのつながりを意識する教員が増えたことがポジティブな変化だといえる。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

1年次

ESDおよびユネスコスクールのオリエンテーションを実施し、総合的な学習の時間のつながりを意識させる。フィールドワークで、地域の歴史的な遺産についての見識を深める。自然教室を活用して環境学習を行い、その後世界規模の環境問題について調べ学習を行う。

2年次

修学旅行への取り組みで、日本の伝統文化について理解を深める。また、世界規模の種々の問題のつながりについて考察する授業を行う（一昨年度実施したもの）。

3年次

自国の文化について、自分たちで考えた方法でプレゼンテーションを行う。留学生との交流を通じて国際理解を図る。